

あまの愛人

よき同志会員に恵まれて 感謝!

皆様には、お元気で家事に、お仕事に、そして吟道にご精励の事と拝察致します。病氣療養中の方々には、心からお見舞い申し上げます。

春季温習会、全国大会、本会定時総会、研修会と大きな事業を無事通過して来ました。日頃本会の各種事業に、ご理解とご協力を頂いている事に先ず以て厚く御礼申し上げます。此度の総会で、十九・二十年年度の新役員が委嘱されました。どうぞ宜しく願います。十七・十八両年度役員の皆様には、大変ご苦労さまでした。有難く厚く御礼申し上げます。

全国の一四六認可団体のうちで会員数の多い順に並べますと緑神会の四九三名を筆頭に、本会は第九番目に位置します。正会員数は、桜吟会の一六一名に次いで第二位の九十一名、全会員数に占める正会員の割合は、四十五%で断然トップ(二〇〇名以上の会)であります。

吟士権者は、鹿兒島吟道会と並んで四名(湊山牙龍・菊田正龍・吉永龍奏・米長晃祥の各氏)でトップ、三冠吟士権者(吉永龍奏氏)を擁するのは本会のみであります。

許証料(春・秋)、総本部年度会費(正会員・一般会員)の総本部への合計入金額のランク付表によれば、全認可団体のうち本会は第五位に位置しております。いわば本学院への貢献度大とも言えるでしょう。

以上最近の総本部資料から引用しましたが、本会は如何によき同志会員に恵まれているかという事の証左であり深く感謝申し上げます。

孫は来てよし。帰ってよし。と云います。詩吟もやってよし。勤めてよし。であります。口コミが一番です。一人でも二人でも、よき同志を勧誘して下さる様お願いします。早く三百名になるとよいがナァと思います。師範以上の方々は、奮って教場を開設下さる様期待します。

健康管理の原則は、「栄養と休養と運動のバランスを。」と云います。食っちゃ寝、食っちゃ寝ではダメです。右三要素のうち運動が不足になりがちです。心して運動に努めましょう。そして健康に留意しながら吟道に励みましょう。健康管理は他人がするものではありません。実行するのは自分自身です。

毎日深呼吸行のお勧め

朝の空気の綺麗な時に、十回以上深呼吸(なるべく複式呼吸)をされます事をお勧めします。

(理事長)

本部だより

平成十九年度春季昇段審査 結果報告

平成十九年度春季昇段審査会が、四月二十二日(日)鷺宮地域センターに於いて開催され、受験者はめでたく合格されました。

会報 第三十九号

発行日 平成十九年七月十日
 編集人 南洲吟道会広報局
 発行人 理事長 吉永 洲神
 発行所 〒一六五〇〇三五 東京都中野区白鷺二―三四―五
 (社)日本吟道学院南洲吟道会
 ☎・FAX 〇三(三三三三)七〇〇九

一般の部						少年の部	
十段	九段	皆伝	四段	三段	初段	二段	初段
秀伝 四名	名	三名	三名	三名	一〇名	二名	三名
名	名	名	名	名	名	名	名
範	正師範	総伝	七段	奥伝	六段	五段	中伝
師	一名	一名	一名	一名	一名	一名	三名
名	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名
計	授	授	授	授	授	授	授
一〇名	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名
	計	計	計	計	計	計	計
	三三名	三三名	三三名	三三名	三三名	三三名	三三名
	八段	八段	八段	八段	八段	八段	八段
	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名
	計	計	計	計	計	計	計
	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名

★新入会員の紹介(会報三十八号掲載後)

次の方々が入会されました。どうぞよろしく!

- 1、及川 和子(平松) 会員No.七三七(十九、一、一付)
- 2、大橋 智祥(洲神会第二) 会員No.七三八(十九、二、九付)
- 3、千葉美智子(米長) 会員No.七三九(十九、四、三付)
- 4、矢野 元重(鎌倉) 会員No.七四〇(十九、五、一付)
- 5、手塚 憲夫(国分寺) 会員No.七四一(十九、五、十二付)
- 6、鈴木 治久(若鷺) 会員No.七四二(十九、六、一付)

★次の方々十九年度正会員に加入されました。

ご協力に感謝申し上げます。

- 1、幕田紫城(若草教場)
- 2、和智和龍(鷺宮教場)
- 3、菅原江龍(白鷺教場)
- 4、上田友城(瑤洋教場)
- 5、大橋智祥(洲神会第一)

★十九年度顕彰 おめでとうございます

- 宗鑑 西本 龍秀(副会長)
 宗師 岩井 龍絢(座間会長) 鈴木 龍美(相談役)
 小泉 龍泰(中町会長) 高橋 龍登(監査役)
 安永 龍珀(経理部長) 山田 龍志(相談役)
 石井 龍文(白鷺) 佐藤 龍勝(監査役)
 菊田 龍貞(白鷺)

★十九年度高齢者特別表彰 おめでとうございます

◎スーパードイヤモンド表彰(九五歳以上皆伝以上)

田代 祐龍(船橋)

◎ゴールド表彰(八五歳以上皆伝以上)

小泉 宗祥(中町会) 小谷 龍八(龍陽会第一)

◎シルバー表彰(八十歳以上皆伝以上)

阿久津照龍(国分寺) 赤池徳祥(洲神会第一)

注、高齢者特別表彰は、十九年度から正会員のみが対象となります。

★吟道普及功労者褒賞 おめでと〜ございます

- ◎銀賞（十名以上会員を増やした方）
小泉 芳祥（中町会幹事長）
◎銅賞（五名以上会員を増やした方）
平松 玉龍（平松教場指導者）

温習会に出て 足の震え

習志野会 笠木 照祥

吟と舞の集い平成十九年南洲吟道会春季吟道温習会が野方区民ホールで開催された。我々習志野会から、五名が出席させてもらった。立夏、前日悪天候であったが、五月十二日好天候に恵まれた。

私が詩吟を始めて、早や、十？年目になる。十？年前のある夜、スイミングクラブの帰り谷津駅前の居酒屋で、一人カウスターに座り女将とビールを飲みながら雑談をしているところに、広瀬正龍先生がいらっしゃいまして、「笠木君、詩吟をやらなかいかな」と、声を掛けて来られました。私は音楽的なセンスは有りません。音痴です。私にとっては別世界です。詩吟を習うとカラオケが上手になれますよ。広瀬先生の熱い情熱が伝わって来たものだった。この頃はカラオケの全盛時代であった。詩吟を始めて七、八年目頃から吟詠らしく成ったかと思う。昇段審査試験も温習会にも出た。

しかし、緊張するが足の震えることはなかった。が吟号「祥」を貰う頃から独吟をするのと左足が震えて来るようになったのです。教室でもそうです。去年の温習会吟題「安宅の関」を吟詠したが非常に足が震えた。今年吟題「鳥江帝に題す」を吟詠することにした。去年のことを考え、震えを止める為

に「両足を長くほぐして出吟した。起句「勝敗は……」は震えなかつた。広瀬先生からよく注意されるアクセント頭高型発音もうまくいけた。承句に入り「羞を包み……」左足が震えて来るではないか。転句「江東の……」左足は震えている。このような時教室では前後に足を出したり後方にすると震えは止まる。しかし温習会の舞台ではそのような動作は出来るはずがない。吉永理事長、吉永会長の言葉が今にも飛び出してしまいそうである。体と足を前後に動かすとは「詩吟、吟者に品格は無い。」と。結句に入ったとたん「巻土……」足の震えが止まったのである。広瀬先生に指導されていた「今だ……」のラの音から入る「未だ知る」が出来たと思う。詩文を誤りなく読み上げた事は上出来であったとホット胸を下ろし思いながら舞台を降りた次第です。

詩吟は詩文を読み上げの大衆芸能と聞いたことがある。詩文が表す言葉の意味合い、アクセント発音を正しく、発生は明瞭と重要な吟詠の要素がある。私の温習会での吟詠はこのような事は「二の次」になったと思う。龍号、指導者吟詠は節調・旋律を巧く正しく活用され詩情豊かに説得力ある表現をされておられた。私もその領域に達したいものだ。それにはやはり、「継続は力なり。」であろう。温習会の感動と感激を忘れず、更なる飛躍を広瀬先生のもとで、吟友共に目差していきたいと思うところです。最後になりますが、企画・進行など裏方を支えていただいた南洲吟道会吟友の皆様にご心より御礼申し上げます。

苦難にめげぬ八王子教場

八王子教場 横山 治龍

目には青葉 山ほととぎす 初がつお
橋本先生のお宅に全員一同が集まり 先生の故郷高知から

直送の初がつおを前にした合吟の宴を懐かしく想い一日も早くお元気な先生に戻られて再開していただきたいと心から祈りしております。

先生は新緑に包まれた閑静な八王子城山病院で歩行訓練などリハビリに励まれております。ベッドの上ではあの一途な先生らしく詩吟のことを不自由な手でメモされたり、我々のことも気にかけておられるようです。お気持ちにはつきりされておりお元気で頑張っておられますのでどうぞご安堵下さい。

扱て八王子会は来年二月に二十周年を迎え記念式典を盛大にと胸ふくらませておりました。ところがここ一、二年の間に思わぬ異変に次々とみまわれて会の存続もピンチになりました。ご存じの原山さん、宝方（恵）さんが急逝、頼りの平田さんは千葉に転居、転籍や先生をはじめ本会も一挙に七名の方が欠ける羽目となり、残った四人も年寄りばかりで一時は解散止む無しとなりました。

理事長から激励をいただき、伝統ある八王寺会の城をなんとか守ろうと情熱が高まり、先生がカムバックされるまで八王子教場として四人で再出発することになりました。現在は小生が国分寺教場の松本先生のご指導を受けながら頑張っております。また、八王子市の広報に会員募集をかけ一人でも二人でも増員を期待しております。

小生の趣味は囲碁と水彩画でしたが定年後に詩吟を加えて三兎を追い結構忙しく楽しんでおります。小生はもともと悪声ですからとてもメジャーは望めずマイナーでいいから、敬天愛人の教えの通り、詩吟を愛する仲間との出会いを大事にしようと思っております。それでも詩吟を始めて十数年、結婚式や法事、町会の文化祭や敬老会等ではいつも声がかかり一吟唸り、お世辞半分の拍手を受け悦に入っております。

先日の総会と研修会で洲神理事長より「俳句の面白さの秘密」「比翼の鳥」「連理の枝」など数々の教えを受け、詩吟はただ声を出して唸ってばかりでは駄目だと改めて反省したところです。わが人生の第四コーナーの活力は詩吟にありと頑張っております。

詩吟との出会い

中町詩吟サロン 松川 優洲

まず、初めに小泉先生から声をだすことは、身体にとても良く、月曜日の午後詩吟サロンを開いていますので如何ですか？とお声を掛けて頂いたのが詩吟との出会いでした。自分には合っていないのではないかと不安がありました。が、健康的な事に関心があったこと、熱心に勧めて下さいましたことで、入会させて頂きました。それから、吉永理事長先生がお見えになり、詩吟を聞かせて頂いた時の声量の凄さには本当に驚きました。

教育勅語や儒教についてのお話をされ、今このような心を持った人達が少ないこと、これからの日本はどうなるのだろうかという漠然とした不安を抱いていた私は強い感銘を覚えました。

最初、声が頭の上から出ている様で、自信が無かったので。春の昇段審査の時は、テープ参加しないで、実際に会場に出席しました。それで中町サロンの全員詩を見ないで吟ずることが出来とても良い経験になりました。

何事も前向きでチャレンジしていくことが大事と、先生の丁寧なご指導のもとで、アドバイスを頂き温習会参加も、我々仲間の方々と励まし合い楽しみながら伴奏テープに合うように合吟に挑戦しました。先輩の皆様の吟と舞いの素晴らしさに時間を忘れていまし

た。又小泉先生ご夫妻の連吟にも感動しました。色々な場に参加し、良い吟を聴く事も、人との出会いも大切な勉強だと痛切に感じています。

詩吟とは、自分勝手に思っていたこととは違い、短歌・俳句・新体詩等と、様々な旋律があり奥深さを感じました。何よりも健康診断で肺活量が増加し、人の前で話す事も少し自信がついた様に思います。改めて、腹式呼吸の良さ、仲間の大切さ、縁の不思議さを感じるこのごろです。

拙き囀り

つたな さえず
教場名 三菱自動車 岩本 美洲

私の現在通っている教場は、西郷南洲と勝海舟の薩摩藩邸における江戸開城会見の場、田町にあります。

私が詩吟教場に通うようになったきっかけは、職場の先輩方がいつも楽しそうに、詩吟部というより酒吟部(?)という感じで、なにより熱心な先生の人柄に惹かれて、長年通っているというお話に興味を持ったからです。

当時は品川でしたが、先輩方について見学に行くと、練習のあとは早くも私の歓迎会と相成りまして、入門に至りました。詩吟の「し」の字も解りませんが、詩歌、短歌、俳句や漢詩などを詠じたり、その背景にある歴史にも触れながら講義を受けていますが、毎回声を出すのが健康にもいいようで、練習のあと一杯はまた格別です。

楽しい思い出は部の先輩の鎌倉教場のお披露目で、他の部の方々と交流したり宴会を催した事です。古の都鎌倉の地に吟が響くのも合っているように思いました。

普段なかなか練習出来ないにも関わらず、厚顔にも臨んだ昇段試験や、今回はじめて参加させて頂いた温習会など、勉強にもなり、またその都度、先生をはじめ先輩方が、温かくまた親切にご指導いただいた事は、大変有難く感じております。吟道精神に則り、生涯「青春」の意気込みで吟する皆様の、生き生きとした姿を拝見しながら、拙い私も、なんとか少しは声が出せるようになったかと思う今日この頃であります。

趣味との出会い・師匠とのめぐり合い

座間会 宮本教場 藤村 雄洲

私の趣味との出会いは、体調(胃潰瘍)の悪い時に、約三十数年前から始まり、埼玉県朝霞市に在住の頃、青年会議所で知り合いになった友人から民謡の会があるから来てみないかという誘いを受け、何か打ち込める趣味をという気持ちで入会しました。稽古日は週一回でしたが、回を重ねるごとに師匠と仲間にも恵まれ声を出すことが楽しく、奥が深いことが解り年一回の発表会に向け必死に精進し、会社の仕事から離れ、気分転換ができ、一応人前で唄うことが出来るようになり、体調も良くなり充実した数年を過ごさせて頂き、師匠とのめぐり合いに本当に感謝しております。ところがその師



匠が病に倒れ、会が解散となり、立ち消えとなりましたがこのままではという気持ちがあり、三味線を教えている師匠を紹介して貰い、民謡も教えて頂けるとの事で思い切って門を叩き、精進をし、三味線もある程度まで弾けるところまでいきました。この師匠も事故で亡くなり志半ばで終わってしまいました。

その後、実家の豊島区駒込の近くに、端唄、俗曲、三味線の看板がありこれも思い切って門を叩き弟子入りすることに。江戸の粋な唄を唄いながら、三味線を弾くという楽しい師匠(落語の出囃子を業としている)にめぐり合い、色艶の世界に、又新しい楽しい仲間に出会うことができました。新年唄い初めと夏にはゆかたざらいと約五年ほど続け、何と人前で唄い、三味線も弾くことが出来るようになりました。

それと同時に会社の近くで詩吟の会(吟道館流)に知人より薦められ入門しておりました。最初の師匠からは頼山陽の「川中島」を習い詩吟との出会いが始まりました。平成元年から五年ほどは、端唄・三味線・詩吟と充実した日々を過ごしていたできました。

ところが、兄(平成五年四月他界)より引き継いだ事業経営(建築金物の卸売業)が思わしくなく、あえなく趣味との関わりを全面的に中断せざるをえず、会社経営に打ち込み、一時はうつ状態に陥り最悪状態となり、平成十七年四月力及ばず自己破産となり、その年の九月住まいを秦野に移し、翌年三月まで慌しい毎日の連続でした。詩吟は四段まで習得しましたが免状も記録もなくなってしまい半ばあきらめていました。そこへ南洲吟道会の座間会宮本龍雅師匠と同じ畑仲間(家庭菜園)でめぐり合い、過去の詩吟への熱い思いをもう一度呼び起こし、一からやり直そうと決意し入門、吟道精神を磨いてみようかと心新たに船出しました。音声を丹田から発するまでは数週間掛かりましたがお蔭様で過去に精進した時の基本が甦り、人前で吟することが出来るようになり、夏季吟道大学講座を一日だけ受講させて頂きました。その後、昇段審査(涼州詞)にも参加させて頂いた。三段の免状(雅号 雄洲)を、そして去る五月には温習会で独吟(涼州詞)の機会を与えて頂き久しぶりの緊張感を味わいました。出来栄は普段の十分の一も出し切れませんでした。一杯吟じることが出来感動しました。感謝の気持ちでいっぱいです。会員初め先生方の素晴らしい詩吟・剣舞等を拝聴し厚い思いで帰って来ました。

まだまだ駆け出しですが一步一步前に進んで行きたいと決意を新たにしました。精神的に安定した今、知人に「趣味は詩吟」と自信を持って胸を張って言えるよう精進したいと思えます。現在までいろんな分野の六人の立派な師匠にめぐり会えた自分は幸せ者だと思ふ今日この頃です。そして今後健康に留意し、詩の精神を体得し、学びながら充実した人生を送ればこの上ない幸せです。

「われ以外 みな師」手本とすべき立派な人は身の回りに大勢います。敬愛する師と共に学び自分を高める。学ぶ楽しみを考える謙虚な自分でありたいと思っております。

「先生の夢」と合吟コンクール

平松教場 杉本 陽洲

昨年の六月、平松教場で湯河原に一泊旅行に行きました。余談ですが途中立ち寄った小田原城のあやめとあじさいの花がとても素晴らしかったです。その夜宿で、先生が「この教場の仲間で合吟コンクールに出ることが夢なの。」とつぶやきました。それがもう秋には夢ではなく現実のこととなってしまいました。私には、青天の霹靂、びっくり仰天です。五

教場めぐり こだま教場紹介 指導者 児玉 龍智

トトロの森はすぐ隣り。人気テレビドラマ「夫婦道」でおなじみの緑薫る茶畑と豊かな自然に抱かれた狭山丘陵にこだま教場があります。平成十年七月に開設し九年目を迎えました。菅野憲城さん・岩倉麗水さん・菅野柚希ちゃんと少人数の教場ではありますが、家族ぐるみの暖かい応援がありほのぼのした雰囲気の中で稽古に励んでおります。

稽古場でもある狭山ヶ丘コミュニティセンター内には数多くの吟詠サークルが存在し、同好会として友情を深めております。毎年七月に「納涼吟詠のつどい」を開催し、地域社会の交流の場として私達も参加致しております。菅野憲城さんの全身に力の満ち溢れた吟は同好会の皆様からお褒めの言葉を頂いております。大学一年生の時から参加した岩倉麗水さんのエネルギッシュな剣舞は大好評でしておひねりを頂いたこともありました。菅野柚希ちゃんの初舞台は「納涼吟詠のつどい」でした。泣きながらの可愛い舞台が印象に残っています。

◎会員からの一言

菅野憲城さん 「あっという間の九年間でした。多忙な警察官の勤務の中で吟道に精進出来た事に感謝しています。」



岩倉麗水さん 「大学の授業の合間に抜けお稽古した事、児玉先生の自宅で手作しのお稽古した事は私にとって青春時代の思い出に残る事と思います。昨年秋、江にありま岩倉電気店の長男と結婚致しました。長男の嫁として家業の手伝いをしてます。電気関係のご用がありましたら岩倉電気店をご利用ください。吟道・剣舞は私きがいとして細く長く続けるつもりです。皆様宜しくお願い致します。」

菅野柚希ちゃん 「初舞台はこわくて泣いてしまいました。でも今年の温習会で「我眉の歌」を最後まで吟じました。吉永先生めて頂きご褒美をもらい嬉しかったです。賞状が沢山欲しいので詩吟を頑張ります。」

こだま教場は小さな小さな教場です。指導する私が仕事を持ち多忙な日々を過しておりますのでなかなか会員の増強が出来ません。アットホームなこの教場を大切に守って行きたいと思っております。皆さん可愛がってくださいね。宜しくお願い致します。

人一組での出場とのこと。我慢じゃないが私たちは、五人のうち三人が習い始めて一年、二年、三年目の初心者の中の初心者です。熱意と意気込みだけでは到底無理なことだと思いました。でも、出場する機会を与えられたことに感謝して「やるきゃない。」と皆で決心しました。吟題を「青の洞門」と決めました。

私たちの強味といえば、いつも一緒なので気心もわかり、何でも言い合える仲。その上、先生がどんなことも受け止めてくれ、熱心に指導して下さいます。また、年が明けて三月、四月には、とてもお忙しい龍陽先生のご指導も受けました。ほんとうにありがとうございます。その時、白鷺会館に二階の窓から見たみごとな八重桜、今も、私の目に残っています。

合吟の練習に勤しんだこの半年余、多くのことを学びました。吟ずる時の姿勢や目線、手の組み方、礼の仕方等等。二音一音で読む、主音に落とす、七のまわしはシに突っ込んでからお腹に入れながら下りてくる等は三年間ずっと言われてきたことが、今回、合吟の練習の中で更に学びました。

しかし、戦いすんで……やはり大舞台のマイクの前に立つと詞を間違えないように一杯で主音に落とすことなんかどこかに飛んでいってしまいました。大いに反省しています。でも、私は大きな声で気持ちよく吟じることができたと、ちょっと満足しています。今年は平松教場の十周年だそうです。一九十だろろうと百歳だろろうと青春にしてみようを座右の銘にして二十周年にまた、皆で合吟ができれば「うれし

素直な気持ち

若鷺教場 米長 優洲

皆様初めまして、去年の一月に再入会させていた米長優洲でございます。母は晃祥、伯父は洲神先生、伯母は龍陽先生と血筋と環境に恵まれております。ただ、まだまだ始めたばかりでこれから努力して少しでも実力をつけたいと必死になっっている状態でございます。

幼少の頃の数年間、従姉妹と並んでみな龍陽先生にご指導いただき、青少年の部にも出させていただけなのですが、九段会館で大失敗したのをよく覚えております。その時は転句で詩文を忘れ、舌を出してしまってもものすごく怒られてしまった事でした。

思春期に入りいつの間にか止めてしまいました。ずっと続けていれば……と今では悔やんでおりますが、それは私が素直でなかった証でございます。なんとも恥ずかしい限りでございます。

これからは素直が一番、毎日精進して努力をしていく所存でございます。昇段試験、吟士権などいろいろなチャレンジをして毎回緊張してしまいますが、こういう場を有難く思い感謝の気持ちで吟に励みたいと思っております。

吟はもろんの事、様々な事で先輩方の暖かいお言葉や厳しいご指摘どうか見守っていただければ幸いです。未熟者の私ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。